

平成30年度 第1回公社等経営評価委員会 議事要旨

1 日 時 平成30年5月14日（月）15:00～17:00

2 場 所 兵庫県庁2号館2階参与員室

3 出席者

(1) 委 員 佐竹委員長、中尾委員、中西委員、吉田委員

(2) 兵庫県 企画県民部長、企画財政局長、財政課長、資金財産室長、人事課長、新行政課長

4 議事要旨

(1) (公財)兵庫県生きがい創造協会ヒアリング

公社及び県関係課から、阪神シニアカレッジの魅力向上や文化会館等の活性化について説明後、委員との質疑応答を実施。委員からの主な意見は次のとおり。

※「→」は公社及び県関係課による回答を指す

① 阪神シニアカレッジの集約について

○ 現在、宝塚、西宮、尼崎、伊丹の4カ所に分散している学習室について、宝塚市役所隣接地の専用学舎に集約し、シニアカレッジの魅力向上を目指しているが、集約することによって逆に利用者にとっては不便になるということはないのか。

→ 新設する専用学舎と場所は異なるが、これまでも宝塚の学習室において、共通科目を実施している。専用学舎の設置については、利用者にも周知を図り、すでに一定の理解を得ているものと考えている。

② 生涯学習における取組みについて

○ 県と市町、民間における生涯学習機能の役割分担はどうなっているのか。

→ 生涯学習に関する各種情報をデータベース化し、発信するひょうごインターキャンパス（生涯学習ポータルサイト）など、協会ではより広域性をもった全県的な事業を実施している。また、阪神地域では、趣味教養を中心とする民間のカルチャーセンター等が充実しているため、阪神シニアカレッジにおいては、都市特有の地域課題や都市の資源を生かした社会活動など、利用者のニーズに応じた専門的、先導的なカリキュラムによって民間との差別化を図り、評価を得ている。

○ どのような方法で広報しているのか。

→ ラジオでの放送など、あらゆる手段を用いて広報しているが、利用者による口コミが一番効果的であると感じている。

③ 文化会館等の運営について

- 文化会館等の指定管理について、今後、もし公募化されることがあれば、民間企業等の参入、競合が予想されるため、それらと競争できる力を養っておく必要があると考える。

(2) (公財) ひょうご産業活性化センターヒアリング

公社及び県関係課から、「ひょうご・神戸経営相談センター」の運営やプラットフォーム機能の強化について説明後、委員との質疑応答を実施。委員からの主な意見は次のとおり。

※「→」は公社及び県関係課による回答を指す

① 神戸市や神戸商工会議所との連携について

- 神戸市や神戸商工会議所との支援の役割分担等はどうなっているのか。
 - 県や神戸市、神戸商工会議所それぞれがこれまでに培ってきた強みを生かしながら支援を行っており、窓口相談の場合、県は得意分野を持つ中小企業診断士などの専門家が対応している。また、経済のグローバル化が進み、中小企業が海外展開を進める中、各支援機関の限られた能力や資力をより効率的に投入する必要があり、これまで以上の連携強化が重要と考える。
- 神戸市産業振興財団との文化や役割の違い、利用者の利便性などの問題もあるが、神戸市産業振興センタービルへの移転による成果はどのように評価しているか。
 - 利用者にとって、一箇所で県と市と会議所の支援を受けられるので、支援の幅が広がり利便性が向上したという声もあるし、運営面でも、従前以上に両者間で相談がしやすくなり、一層の効率化に寄与していると考えます。
また、サンパルの移転後の空きスペースにスモールオフィス等の起業の場や相談等交流機能を備えた拠点施設「起業プラザひょうご」を開設した。

(3) (公財) 兵庫県園芸・公園協会ヒアリング

公社及び県関係課から、都市公園等の管理運営の効率化など健全経営の維持に向けた取組みや明石城築城 400 年に向けた取組みについて説明後、委員との質疑応答を実施。委員からの主な意見は次のとおり。

※「→」は公社及び県関係課による回答を指す

① 公園の利用状況について

- 入園者数の増加について「淡路花博 2015 花みどりフェア」以外には、どのような要因があると考えられるか。
 - 天候を除けば、適切な維持管理や効果的なイベントの実施、SNS 等を活用した広報など様々な取組の効果があつたと考えている。特に 29 年度にニジゲンノモリが淡路島公園においてオープンしたことや、あわじ花さじきの入園者数が増加したことが大きな要因である。

- フラワーセンターやあわじ花さじきの状況はどうなっているのか。
 - フラワーセンターは、ここ3年間で数千人ずつではあるが入園者数が増えてきており、特に昨年の古代鏡展示館の開館に伴い、同館のPRに取り組んだこともあって上向きとなっている。あわじ花さじきについては、テレビの観光スポット紹介での放送など、マスコミを通したPRの影響等もあり、入園者数が増加している。
- 広報にはどのように取り組んでいるのか。
 - SNSを頻繁に更新し、開花状況をタイムリーに情報発信するなど、広報の充実に力を入れている。

② 公園の管理運営について

- 各公園における管理運営の手法は。
 - 全ての公園が指定管理施設（あわじ花さじきを除く）となっており、大半は公募に出されたものを協会が獲得し運営する形となっている。また、民間との共同事業体により指定管理を獲得するなど、公園の特性を踏まえ、民間活力を活用した運営を一部で導入している。